

2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.4 FUJI GT SPRINT RACE RACE REPORT



SUPER GT 2025 第4戦 FUJI GT SPRINT RACE レースレポート

開催日：レース1 公式予選／決勝 8月2日(土)

レース2 公式予選／決勝 8月3日(日)

開催地：静岡県 富士スピードウェイ

レース1

シーズン第3戦目としてセパン・インターナショナル・サーキットで開催されたマレーシア大会は、参加可能台数の関係で9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」はお休み。約3ヶ月のインターバルを経て、8月2～3日、第2戦富士以来の「2025 AUTOBACS SUPER GT Round.4 FUJI GT SUPRINT RACE」に挑んだ。

今大会はSUPER GT史上初となるスプリントレース方式が採用され、給油やタイヤ交換、サクセスウエイトのハンデキャップがない形。さらに、ドライバー交代もなく、ひとりのドライバーがすべてを担うというものだ。また、2日間の各日で予選とスプリントレースが行われ、レース1はGT500とGT300の混走、レース2は各クラス分かれての50分間の決勝が実



施された。

2日(土)は、真夏の酷暑のもと、午前8時30分から30分間の公式練習がスタート。この日のレース1を担当する阪口良平選手が乗り込んだ。9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」のセットアップを行っていき、短い時間の中で17周をこなし、終盤には1分38秒855をマーク。午後の公式予選へと準備を進めた。

公式練習終了後、午前11時40分からは公式予選がスタートした。各チームひとりのドライバーが乗り込み、20分間でタイムを残す計時予選方式で争われる。阪口選手はコースインするとタイヤをウォームアップさせ、アウトラップ4周目に計測を開始。公式練習から0.068秒縮める1分38秒787をマークするも、スピード不足と車体バランスを合わせることができず、ライバルたちからタイム差が開く結果に。トップから1.7秒差の23番グリッドからレース1をスタートすることとなった。

午後2時15分から行われた15分間のレコノサンスラップを終え、その後午後

3時15分にレース1のスタートを迎えた。朝から好天に恵まれ、レース1開始時には気温34度、路面温度57度まで上昇。ドライバーにとっても、クルマとタイヤにとっても、厳しいコンディションの中でスタートが切られた。ステアリングを握る阪口選手は、ひとつ順位を上げ22番手でオープニングラップを終えたが、1周目からGT500車両がクラッシュしたことからセーフティカー(SC)が導入され、5周目にリスタートを迎えた。

ここでも順位をキープした阪口選手だったが、地力のペースに優る6号車「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」に先行を許すことに。さらに、レース中盤からは、次第にパラパラと小雨が降り出すことに。難しいコンディションの中、終盤には1台をオーバーテイクし、グリッドから1ポジションアップの22番手でチェッカーを受けた。予選およびレース1はやや厳しい結果となってしまったが、阪口選手が戦ったレース1でのデータをもとに、翌日に向けてセッティングの変更など調整を行った。





レース2

レース1から一夜明けた8月3日（日）も同様に、午前8時30分から30分間の公式練習と10分間の専有走行が実施された。レース2で、9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」をドライブするのは富林勇佑選手。前日からセッティングの変更によってやや改善も見られたが、ストレートスピードが伸び悩み、課題を抱えていた。それでも富林選手はピットアウト～アウトを繰り返しながら20周をこなし、終盤には1分37秒798をマークし、14番手につけた。

続く公式予選では、少しずつタイムを削っていくも、最終アタックで記録した1分37秒933がベストタイム。公式練習で



の自己ベストには及ばなかったが、トップから1.045秒差の14番グリッドを獲得した。

タイトなレーススケジュールの最後となる50分間で争われたレース2は、午後2時15分に開始した。富林選手は序盤から好ペースで戦い、5周目に13番手に浮上すると1分39秒台の安定したラップで前との差を詰めていく。ただ、背後から56号車「リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R」がじわじわと詰め寄り、攻防戦の末に12周目には先行を許してしまう。



その後も、何度か前を走るライバルに仕掛けるも、スピード不足からわずかに届かず。それでも1ポイントでも多く持ち帰るため、最後までポジションをキープさせ、最後は14位でフィニッシュした。さらに他車のペナルティによりひとつ順位が繰り上がり、結果的には13位で1.5ポイントを持ち帰ることになった。

レースウィークを通じて課題は多かったものの、ポイントを持ち帰ったことはシーズンを通してプラス。また、今大会は酷暑の中でイレギュラーなスプリントでの2レース制となったが、乗り込んだ阪

口選手と冨林選手がきっちりとそれぞれのベストを尽くした。ドライバーに加え、中日本自動車短期大学(NAC)の学生メカニックが、引き続きしっかりとクルマを作り上げたことも今回の結果に結びついた。

シーズン第5戦は、舞台を鈴鹿サーキットへと移し、3週間後の8月23～24日に行われる。第4戦までの間に行ったテストでは良い手ごたえも得ているだけに、今回以上の結果を狙いたい。さらに上を目指し、第5戦鈴鹿に向けてチーム一丸となって準備を進めていく。



Comment



エントラント代表
神野元樹

今大会も多くのご声援ありがとうございました。今回は、SUPER GTではシリーズ初となるスプリント形式でのレースとなりましたが、阪口選手と富林選手が各々でしっかりと速さを見せて完走してくれました。クルマにおいては課題も多い状況でしたが、トラブルもなくポイントも獲得することができたのは、チームにとってもNACの学生メカニックにとってもプラス要素となります。次戦の鈴鹿も、万全な体制で挑めるよう準備を進めて参りますので、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

今回は富士ということで、相性も良いはずなので手応えをもって挑みました。しかし、公式練習でピットアウトしてからスピードが感じられず、サスペンションなどを調整して対応しましたが、うまくクルマのバランスを取ることができませんでした。レース中盤の雨も、さらに良くない方向へ向かってしまいました。ただ、成績ももちろん大事ですが、少ない走行時間で色々トライした結果、マイレージは稼げていると思います。改善点も分かったので、様々なことを試し前向きな気持ちを持って臨んでいきたいです。次戦の鈴鹿は、事前のテストが良かったので、その際のベースを持ち込んで走っていきたいです。



阪口良平 選手



富林勇佑 選手

前日の阪口選手のレースでは、苦勞した部分や思ったよりもクルマのパフォーマンスがあまり高くなさそうだったので心配していましたが、前日のデータを見ながらできることをし、セッティングを変更すると改善も見られました。ただ、今週はストレートが伸びづらく、原因を究明するために予選で違うことを試しましたが、変化が見られずクルマのバランスが崩れてしまい、レース2でもスピードも伸びづらくなかなか抜き返すことができませんでした。結果的にポイントは獲れましたが、抜ききれなかったのが残念です。でもクルマのバランスは良く、スプリントレース自体も楽しむことができました。





I PARTNER



THE IDOLM@STER™ & ©Bandai Namco Entertainment Inc.



I SPONSOR

